

産建教育常任委員会 議事録

日時：令和8年5月20日（水）

午後1時15分～

場所：第1・2委員会

出席者

委員名 ☐委員長 遠藤 龍之 ☐副委員長 丸子 直樹 ☐委員 日下 重紀
☐委員 菊地 孝式 ☐委員 品堀 栄洋 ☐委員 岩佐 孝子
欠なし

会議次第

1 開会宣告 【委員長】

2 連絡

※ SideBooks及びMicrosoft Teamsの04_常任委員会 産建教育常任委員会フォルダに次
第・資料を格納します。確認をお願いいたします。

3 事件

再編小学校についてのまとめ

【委員長】本日の目的は、まとめの確認と視察研修の方向性を確認し、6月議会に最終報告として提出を目指すことである。閉会中に取り上げたことは、再編小学校、商工業、農業の担い手確保対策であり、この方向で進めていく。

副委員が調査してまとめた資料をTeamsで共有し、委員会で内容確認を行う。

【委員長】これがまとめたものであるが、確認したいのは委員会の意見である。全体については様式にまとめる。不足部分があれば意見をもらいたいが、次回までの課題とする。

【品堀栄洋委員】副委員長に情報提供したのは、「学校形態及び教育方針の早期明確化」「将来人口推計を踏まえた計画の再検証」「通学路を含めた安全対策の具体化」「不登校対策及び多様な学びの場の確保」「PFI方式導入の妥当性についての慎重な判断」「開校事業の柔軟な見直しの検討」と前回の話に出たことを副委員長へまとめたものを提出してある。個人的には、「地域文化を生かした教育内容の構築」を追加したい。

【岩佐孝子委員】今の学校の教育の課題と、これから再編に向けての課題があると記憶している。建設に向けての部分と現代の課題の部分を分けて考えたほうがよいのではないか。現在抱えている課題は不登校やそれぞれの特色などもあり、学校の建設に向けた部分と分けたほうが理解しやすいのではないか。

【委員長】考え方の中で、二つに分けたほうがよいということか。

【品堀栄洋委員】物価高騰の時期に期限を決めていると思うが、そこも含めて建設の金額を再度考えてみたらどうか。期限にとらわれず、少しでも費用削減を考える必要があるのではないかと委員長が言っていたと記憶している。

【委員長】明確に言うと、完全に反対する意見になるため、その点は強調しない形で表現した。正直に、責任をもって今の状況の中で計画どおりに進められるかということ、担当委員会としては大きな不安・懸念がある。明らかに倍以上となっている部門もあるであろう。材料費などもそうである。そもそも大規模な事業費であることから懸念もある。

岩佐委員が言いたいのは、現状と教育内容を分けるということであると理解している。教育総務課長に強調したいのは、小中一貫にすることは決定しているが、取り組んでいく中で一つ一つの課題を明確にしながら進めるのであれば、要所ごとに委員会で監視していく必要があるという点である。

一般質問で取り上げる予定であるが、学童保育についても地域文化を支えるまちづくりにおいて非常に重要な活動の一つであるため、この考えも併せて前に進めなければならない。

【副委員長】大まかな内容としては、調査の概要と委員会の意見であるが、所感も入れていいのか確認したい。自分がまとめたものでも内容が多いため、ここから細分化して入れるのであれば大幅に削減するか、簡潔な言い回しでまとめるしかない。委員会の意見をどの程度にするかを分かりやすく示してほしい。

【委員長】報告書として提出する際には、調査結果とそれに対する意見という非常に簡潔なまとめ方としている。

【副委員長】ほかにあれば追加し、概要や課題の文字数を減らして再度作成する。視察に関しては、両面一枚にまとめる。

【委員長】視察は実施報告のみであるため、それは不要である。この件については、副委員長がまとめたものをよく確認し、訂正が必要な箇所は副委員長へ報告すること。

(1) 商工業・農業の担い手確保対策について

①現地調査の日程について

【委員長】この件についてはまだ整理されていない。

【品堀栄洋委員】農協と商工会に行くのはどうなるのか。

【委員長】それは次の課題として取り上げる。報告については途中経過でよい。これまで説明を受けて議論してきたが、なかなか結論が出ず、案として出たのが専門団体の話を聞く必要があるということであった。次回委員会のテーマとするのであれば、現段階でまとめは不要とも考えられるが、今回調査してきた内容のまとめとしてどうするかという問題もある。その中で、さらに団体に行って話を聞き、調査結果をまとめたい。

【品堀栄洋委員】前回、産業観光課長が来て説明を行った。その後に農協、商工会に行って話を聞き、その内容も含めてまとめるものと認識していた。

【委員長】まとめとするならば、今回の6月までの所管事務調査の結果については、まだ別途調査中として議会に引き継ぐ形でよいと考える。その場合、次回に向けて商工会と農協に訪問し調査することを明記し、調査継続とするまとめになると考える。

【委員長】まとめについてはこの2件でよいか確認する。

次に視察地について改めて確認する。テーマについては担い手不足と学校再編を視察の目的としてよいか、あるいは新たなテーマを設定するか。よろしければ、それに見合う研修地を探すことでよいか確認する。

【品堀栄洋委員】前回、副委員長が提案した法人化して農業を行い、担い手を確保する内容がよいと考える。副委員長及び岩佐孝子委員の案でよい。

【委員長】法人化に特化するという事でよいか。担い手不足対策の一環として法人化を進めるという形になると考える。

【副委員長】法人化に当たって、行政としてどこまで関与できるかが重要である。行政が個人や事業者に対して直接関与できる範囲は多くない。農業法人で問題となるのは農地であり、集約された農地がなければ農業は成り立たない。このため、農地の集約や、山元町のように産業観光課が関与している事例、または実際に農地を集約し規模を拡大していった農業法人が参考になると考える。

【品堀栄洋委員】前回、産業観光課長に聞いた際、町から農地の情報提供がある場合と、来てから農地を探す場合では大きな差があるとのことであった。行政として地権者から了解を得て一区画で使えるよう整備するなどの取り組みを行っている自治体について、山元町と比較して学びたい。

【岩佐孝子委員】担当課が詳しいため、担当課と相談してから考えたほうがよい。先進地に行くのであれば、担当課と確認しながら考えたい。

【副委員長】委員の中で視察地の候補はあるか。

【品堀栄洋委員】行くのであれば穴水も含めて検討したほうがよいのではないか。

【委員長】被災地であるため、都合があり慎重にしなければならない。仮に訪問する場合には、相応の対応が必要である。担い手については以上でよいか。併せて学校再編はどうするか。この件だけでも見通しは出てくる。学校再編は4年後に完成するのか。

【品堀栄洋委員・岩佐孝子委員】開校は4年後であり、3年後には建物が完成する。

【委員長】開校まで迫っている中で、どのようにまとめてから参加し議論するかが重要である。すべての問題が解決していない中で進んでいると考ええると、統廃合についても結論が出ていなくても、途中の課題や対応を確認することは有意義である。宮城県や長野県でも統廃合の事例がある。その状況を確認し学ぶことは今後の参考になる。

【岩佐孝子委員】教育総務課とも相談したほうがよい。

【委員長】視察地は最低でも3か所は行きたい。できれば学校再編で3か所、担い手で3か所としたい。学校再編については、岩佐孝子委員の意見のとおり担当課と確認したほうがよい。我々の視点で確認すべき事項があれば、それも含めて進めていきたい。次の最終常任委員会で決定したい。各委員は関係事項について自覚をもって進めること。

4 そ の 他

○次回開催 6月11日（水）午前10時00分～

5 閉会宣告 【委員長】

（午後2：13閉会）